

2007年度第4四半期の決算概況

(2007年1月～12月)

2008年1月22日

モーニングスター株式会社

Part 1

連結決算の概況

連結決算数値

(単位:千円)

	2006年度通期 (2006年1月～12月)	2007年度第4四半期 (2007年1月～12月)	対前年同期増減率 (%)
売上高	1,628,623	4,993,984	+206.6
営業利益	431,301	682,841	+ 58.3
経常利益	537,173	730,135	+ 35.9
当期利益	672,444	380,344	- 43.4

連結のセグメント別の売上高増減(1)

＜金融情報評価・情報提供・コンサルティング＞セグメント

(単位:千円)

	2006年度通期 (2006年1月～12月)	2007年度第4四半期 (2007年1月～12月)	対前年同期増減率 (%)
＜コンサルティング＞ ・資産運用&企業IRセミナー ・資産運用シミュレーションツール ・ファンド選定アドバイス ・インデックス・ライセンス・ビジネス ・確定拠出年金関連ビジネス	504,752	662,740	+31.3
＜データ・ソリューション＞ ・個別株式・ファンドレポート ・ファンドの計量分析データ ・ファンドレーティングのライセンス ・株式新聞の購読料 ・株式ニュースのデータ配信	359,480	1,214,712	+237.9
＜メディア・ソリューション＞ ・ウェブ・携帯広告 ・株式新聞の広告 ・アフィリエイト・プログラム	250,508	2,478,886	+889.5

※その他項目の売上高は除く

連結のセグメント別の売上高増減(2)

＜ウェブサイト評価・情報提供・コンサルティング＞セグメント

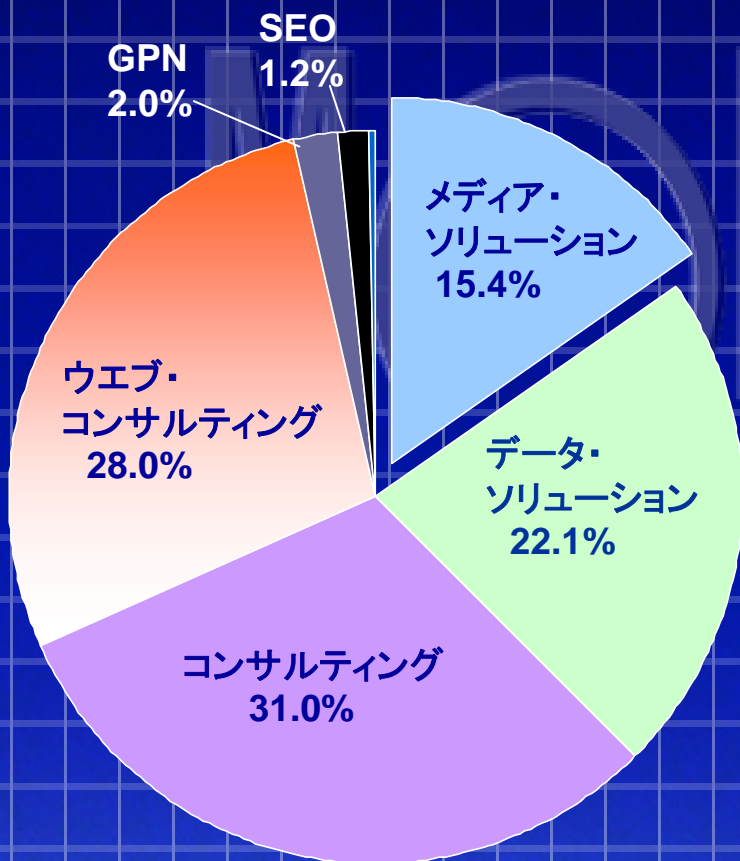
(単位:千円)

	2006年度通期 (2006年1月～12月)	2007年度第4四半期 (2007年1月～12月)	対前年同期増減率 (%)
ウェブ・コンサルティング	456,567	514,571	+12.7
GPN(Gomez Performance Networks)	32,759	36,076	+10.1
SEO(Search Engine Optimization)	19,241	79,183	+311.5

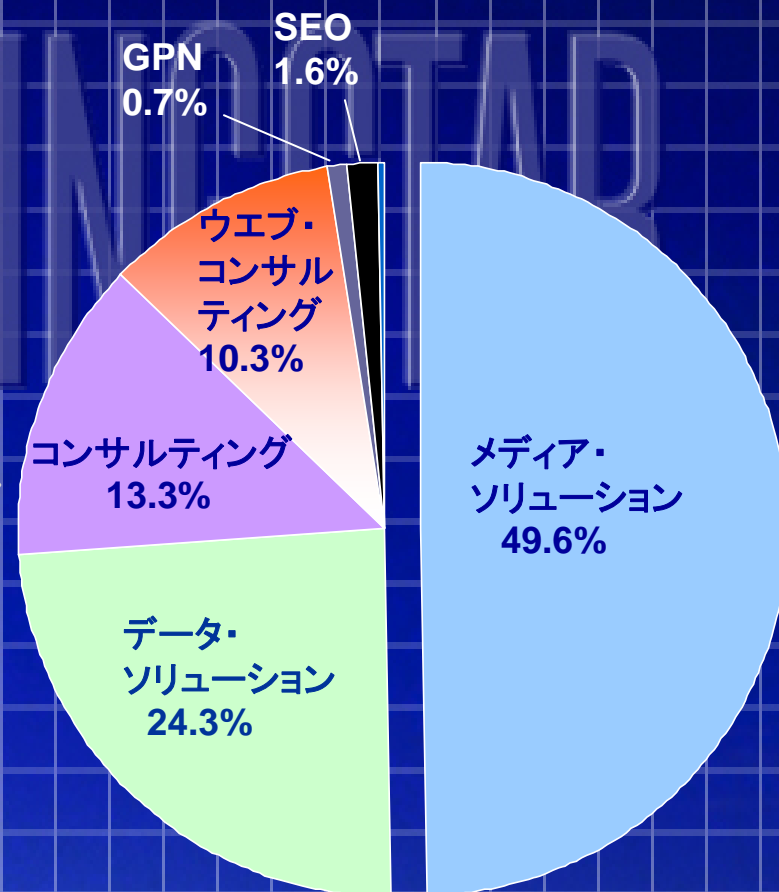
*その他項目の売上高は除く

連結のセグメント別の売上高構成比

2006年度通期
(2006年1月～12月)



2007年度第4四半期
(2007年1月～12月)



Part 2

MORNINGSTAR

単体の概況

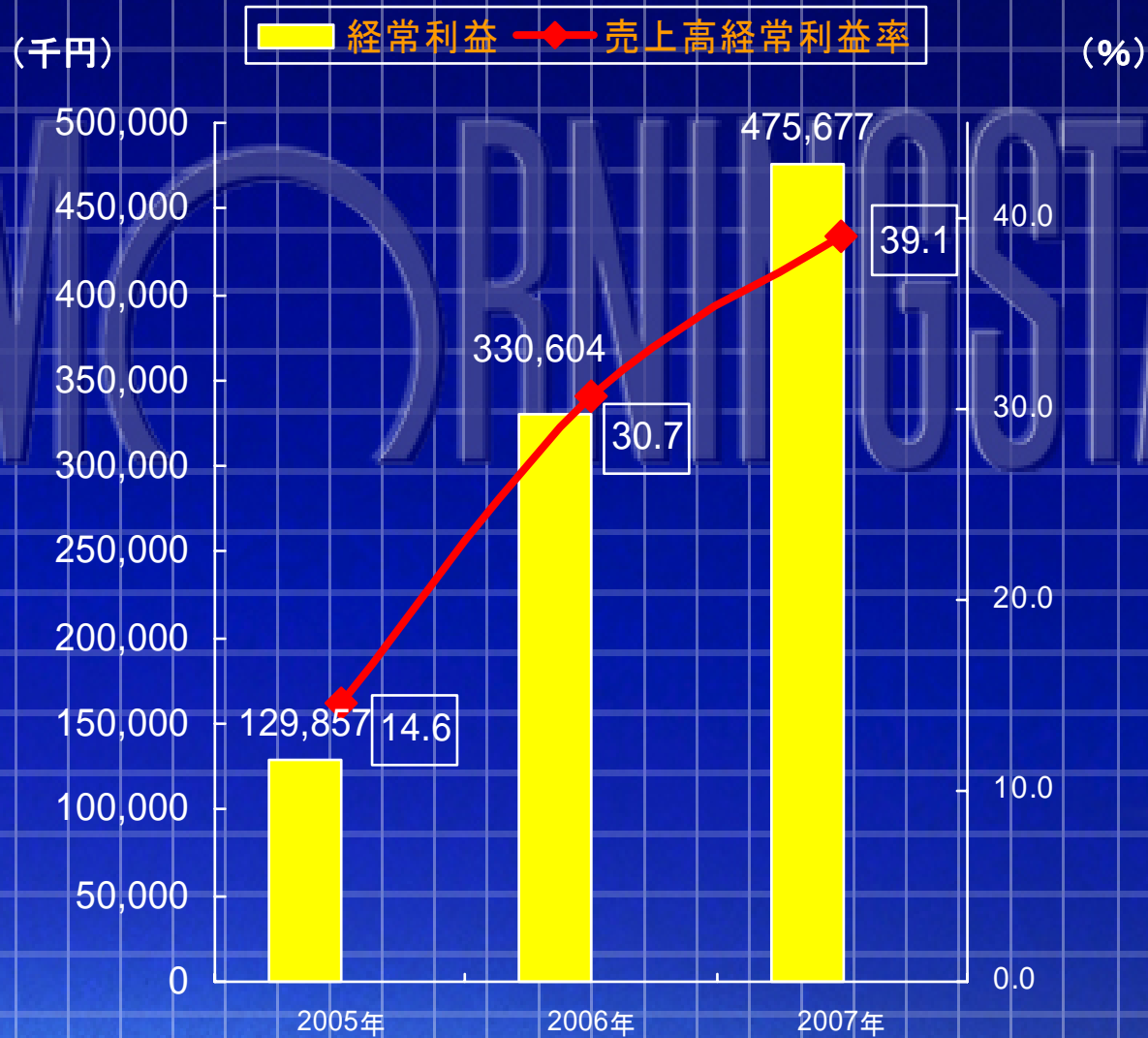
モーニングスター

モーニングスター単体の決算数値

(単位:千円)

	2006年度通期 (2006年1月～12月)	2007年度第4四半期 (2007年1月～12月)	対前年同期増減率 (%)
売上高	1,078,161	1,215,498	+ 12.7
営業利益	238,703	395,956	+ 65.9
経常利益	330,604	475,677	+ 43.9
当期利益	355,113	287,356	- 19.1

モーニングスター単体の経常利益率の推移



単体のセグメント別の売上高増減

(単位:千円)

2006年度第通期
(2006年1月～12月)

2007年度第4四半期
(2007年1月～12月)

対前年同期増減率
(%)

<コンサルティング>

- ・資産運用関連セミナー
- ・資産運用シミュレーションツール
- ・インデックス・ライセンス・ビジネス
- ・確定拠出年金関連ビジネス
- ・事業法人向けライフプランセミナー

440,244

373,773

- 15.1

<データ・ソリューション>

- ・個別株式・ファンドレポート
- ・ファンドの計量分析データ
- ・ファンドレーティングのライセンス

386,480

483,489

+ 25.1

<メディア・ソリューション>

- ・ウェブ・携帯広告
- ・アフィリエイト・プログラム

250,508

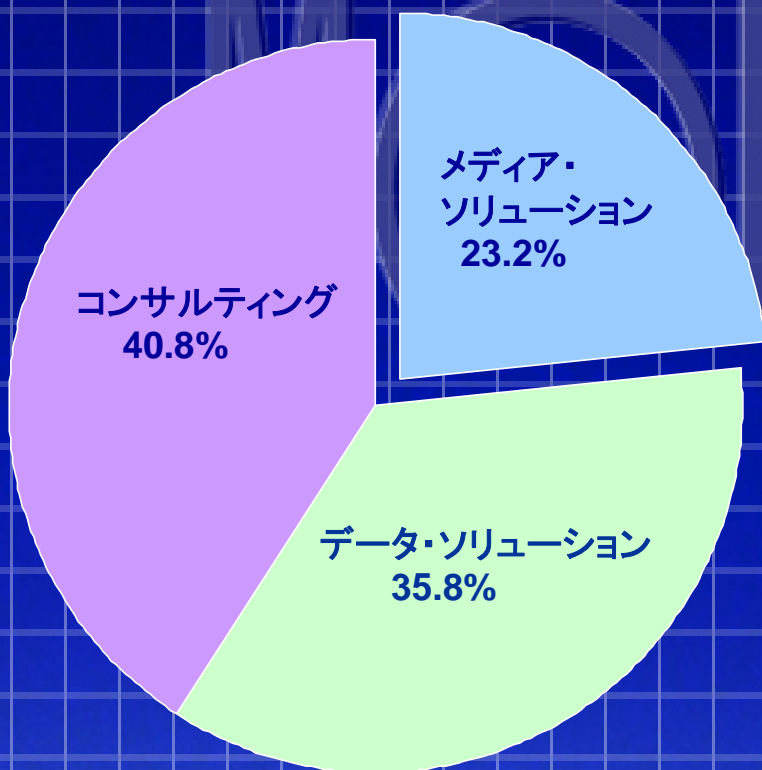
358,236

+ 43.0

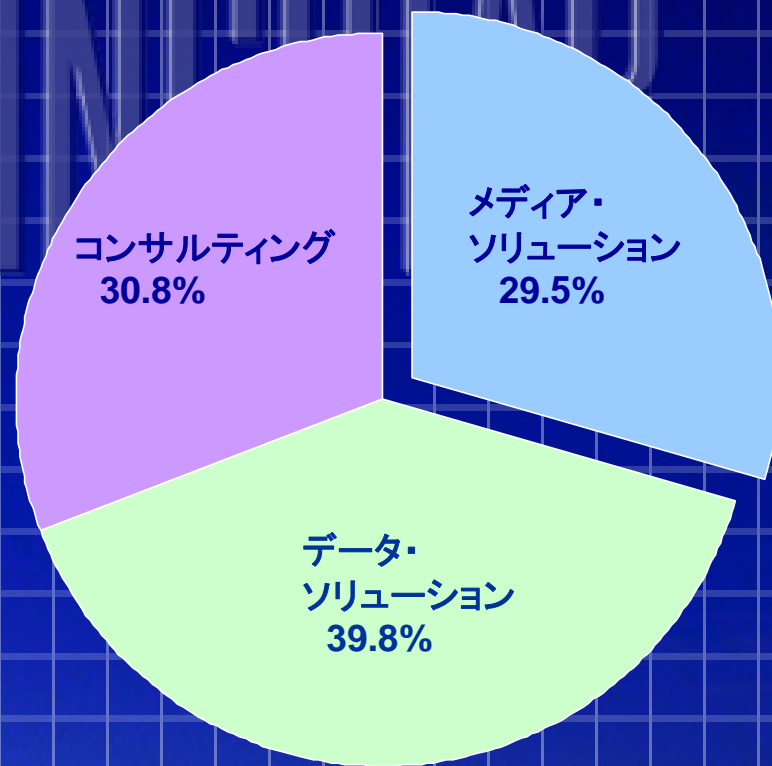
※その他項目の売上高は除く

単体のセグメント別の売上高構成比

2006年度通期
(2006年1月～12月)



2007年度第4四半期
(2007年1月～12月)



様々な媒体を通じて多様な投資家が集まる モーニングスターのウェブサイト

朝倉書籍
約4万部



FundInvestor
8千部



JTBベネフィット
80万部



Funds300
3千部



株式新聞
4万部



年間 約20回以上の開催
延べ参加人数1万人以上



モーニングスター媒体

資産運用セミナー

ゆうちょ銀行
15万部



横浜銀行
5万部



関西
アーバン銀行
6万部



足利銀行
3万部



フリーマガジン

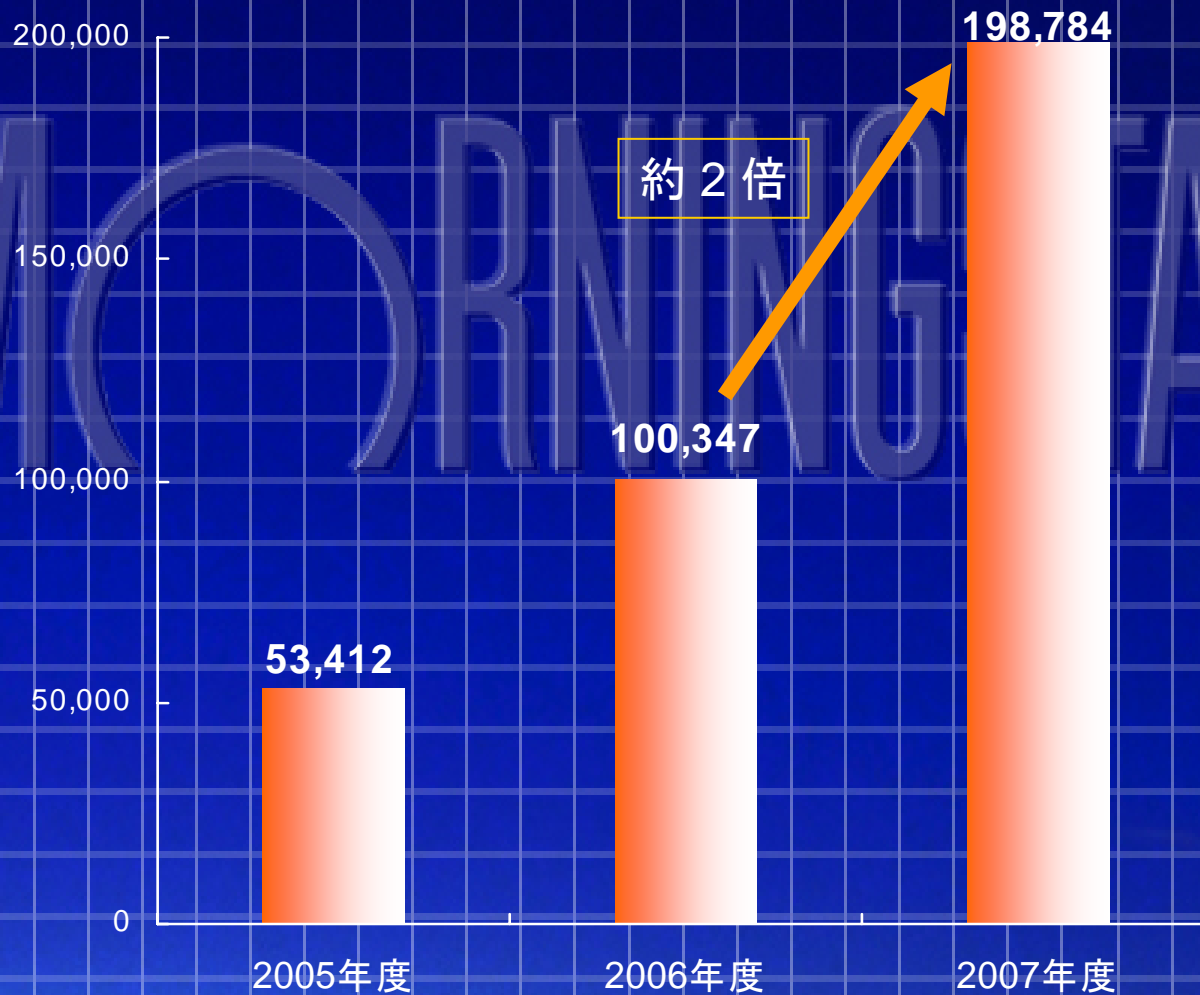


モーニングスターウェブ

- ・朝日新聞 900万部
- ・毎日新聞 400万部
- ・共同通信経由(京都新聞 50万部)
- ・河北新聞 50万部
- ・四国新聞 20万部
- ・西日本新聞 84万部
- ・琉球新報 20万部
- ・北海道新聞 123万部
- ・Yahoo Finance
- ・MSN
- ・BIGLOBE
- ・Finance@nifty
- ・AOL
- ・GOO 新聞・メディア

年間のページビューの推移

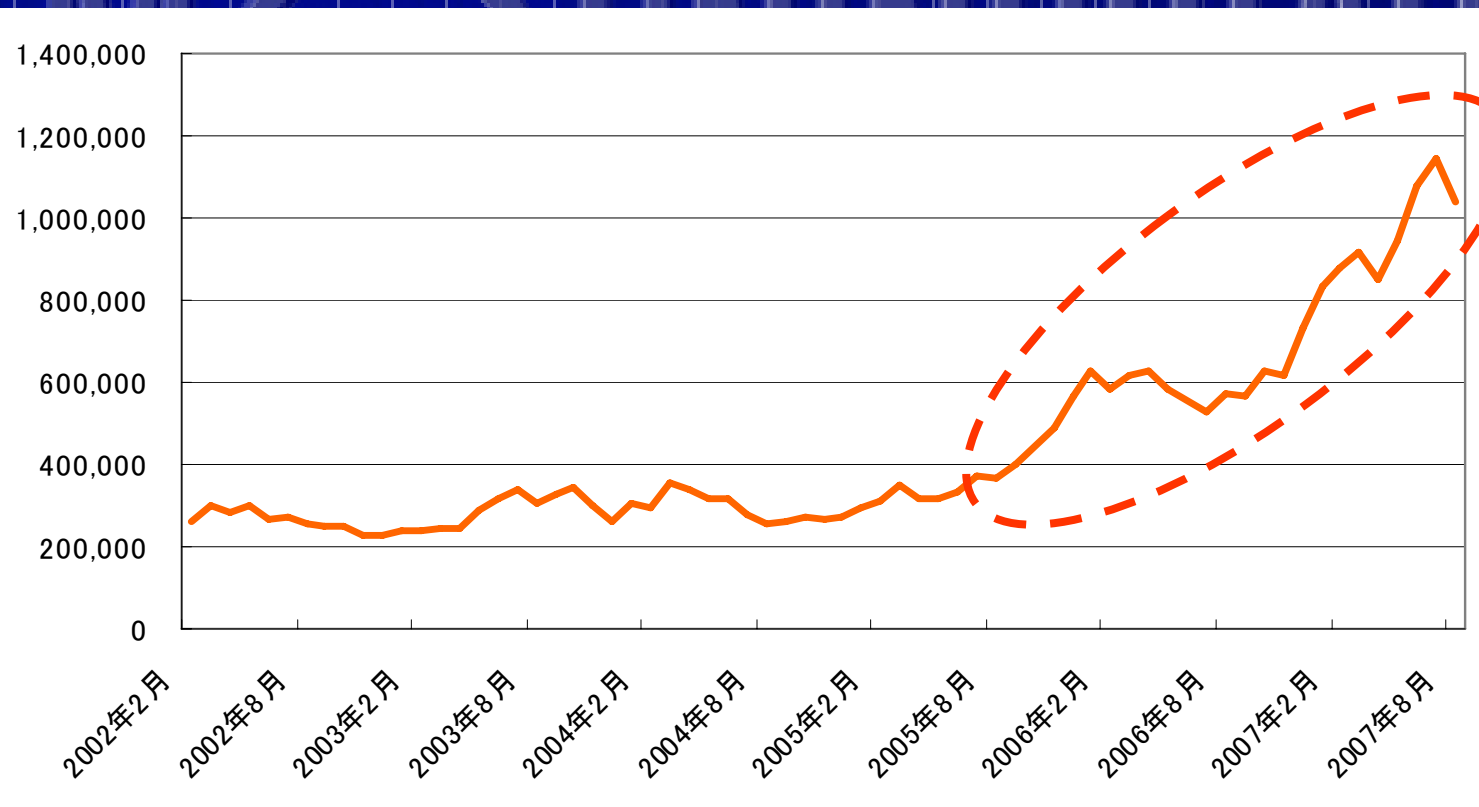
(千ページ)



モーニングスターウェブサイトの 月間ユニークユーザー数の推移

月間100万人以上のユーザーが集まる
モーニングスターのウェブサイト

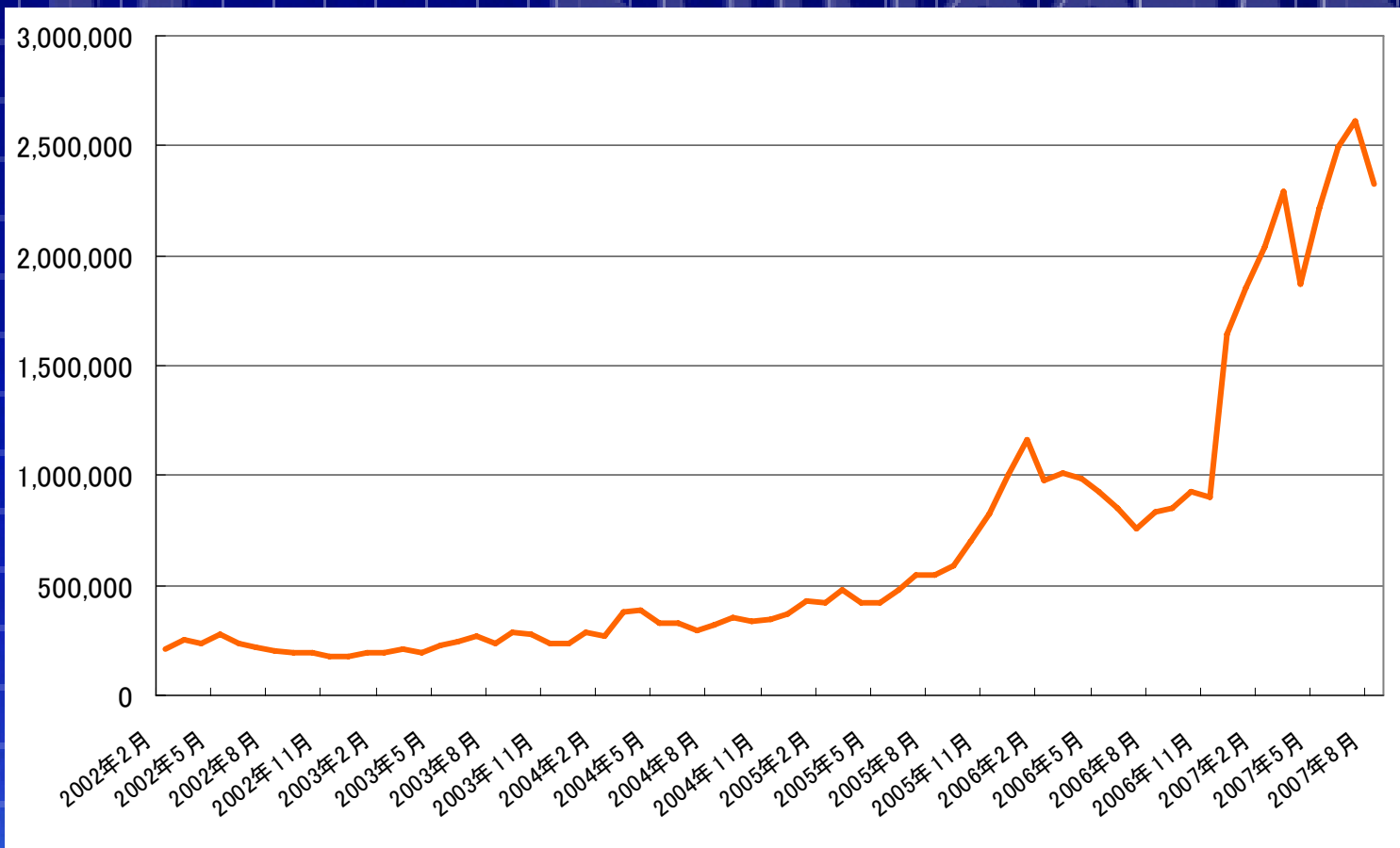
(単位:人)



モバイルページビューの推移

2006年11月から3キャリア全てにおいて、ファンド検索、
ランキング情報のサービスを開始し、急速にページビューが拡大。

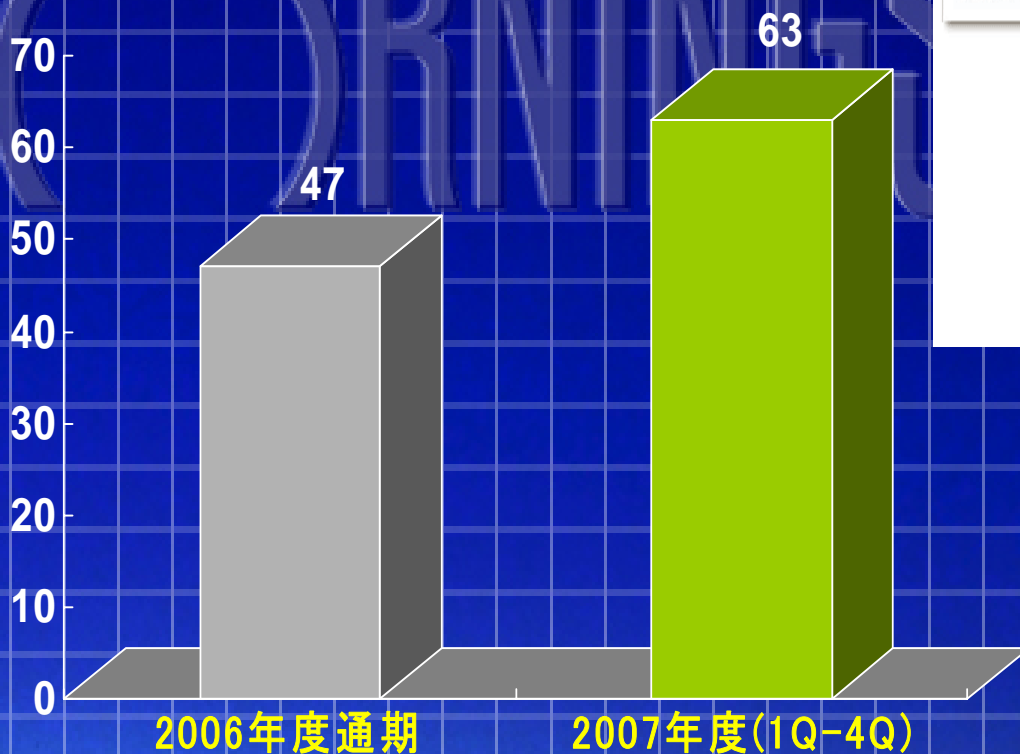
(単位: PV)



利用ニーズの高まるモーニングスター独自の分析データ

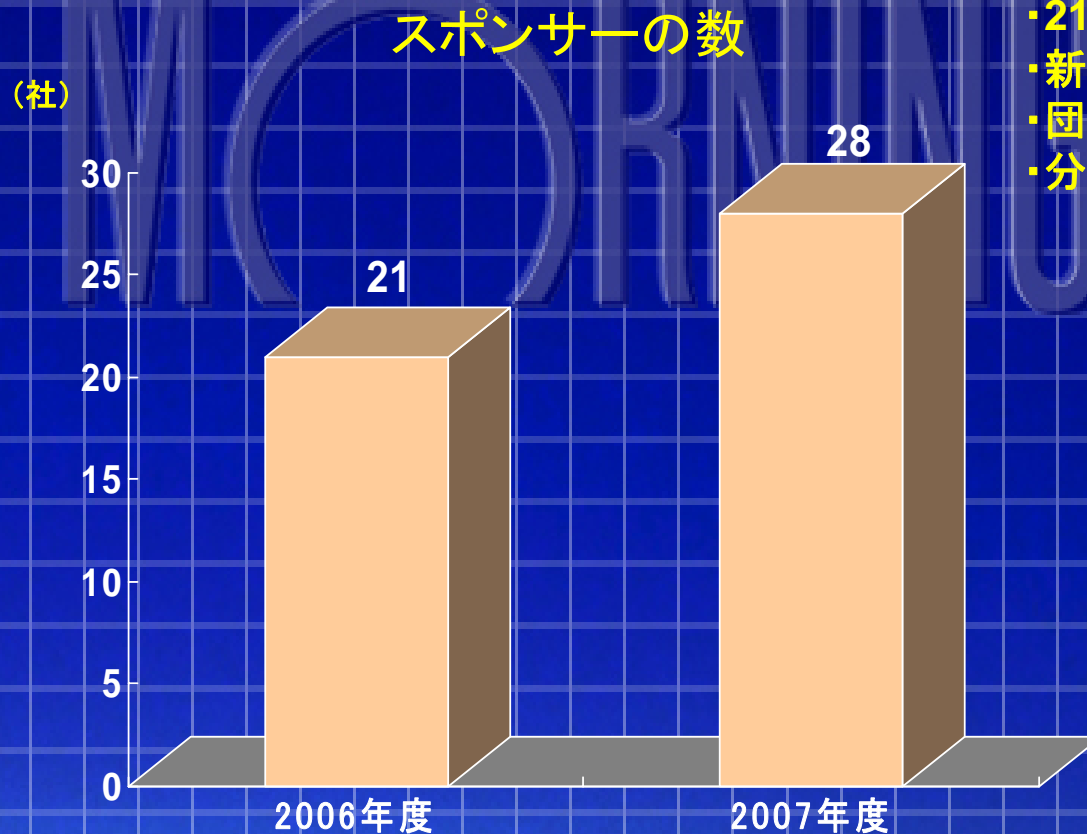
モーニングスターのデータ&ライセンス利用社数

(社)



A screenshot of a Morningstar data analysis report. The report displays a detailed table of financial data, including various metrics and performance indicators. The table is organized into columns and rows, with a header section at the top. The data appears to be related to a specific company or sector, providing a comprehensive overview of its financial performance.

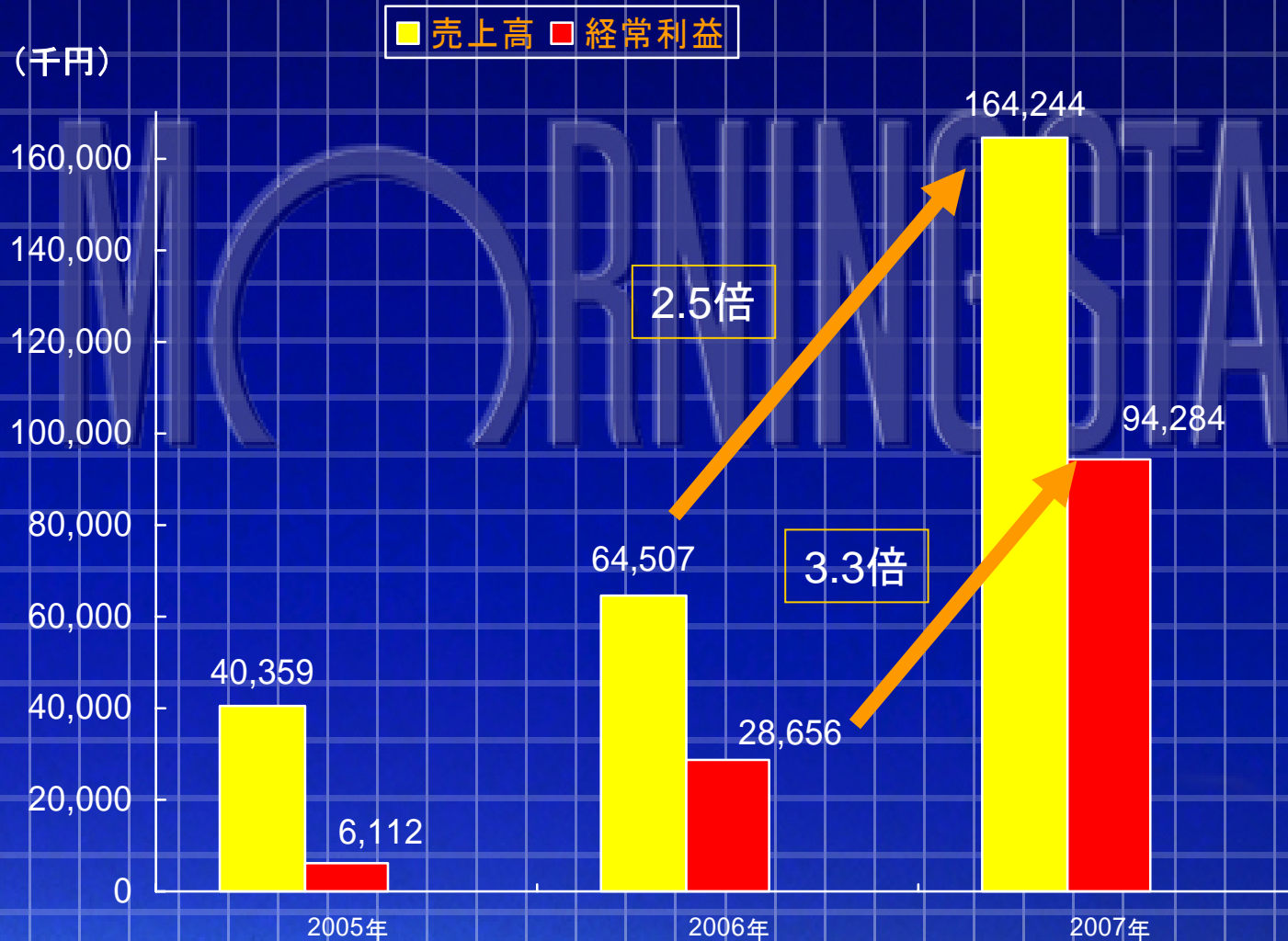
投信運用会社、販売会社の スポンサー形態による資産運用セミナーの開催



- セミナーのテーマ(例)
 - ・21世紀を勝ち抜く賢い資産運用
 - ・新興国ファンドの魅力と賢い活用法
 - ・団塊世代へ贈る資産運用セミナー
 - ・分散投資は何故必要か

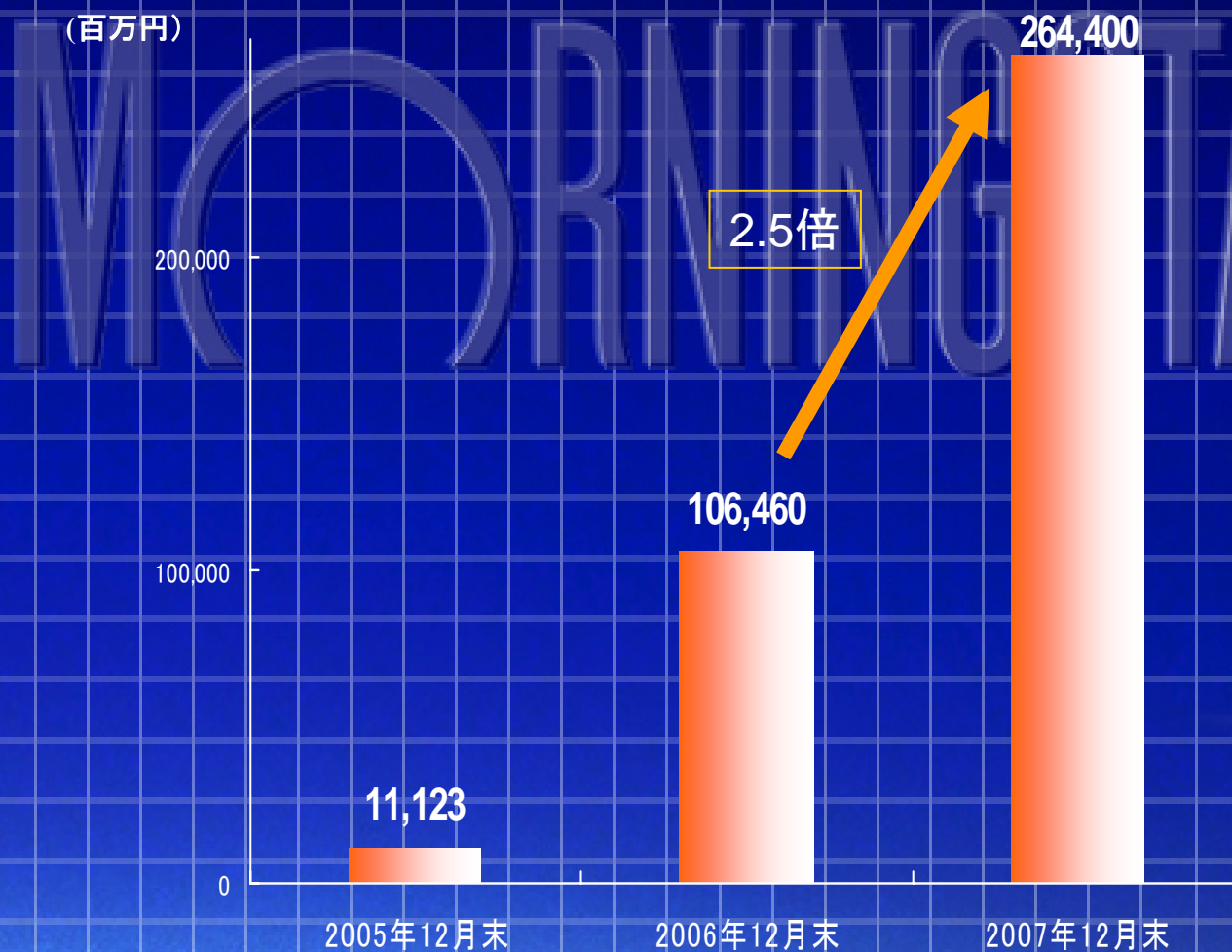
- 主要スポンサー
 - ・野村アセットマネジメント
 - ・日興アセットマネジメント
 - ・大和証券投資信託委託
 - ・フィデリティ投信
 - ・JPモルガンアセットマネジメント
 - ・国際投信投資顧問

モーニングスター・アセット・マネジメントの 売上高および経常利益の推移



※上記各数値は監査法人による監査を受けておりません。

モーニングスター・アセット・マネジメントが 投資助言を行なうファンド・オブ・ファンズの運用残高



Part 3

MORNINGSTAR

単体の概況

ゴメス・コンサルティング

ゴメス・コンサルティング単体の決算数値

(単位:百万円)

	2006年12月期 通期 (06.01.01～ 06.12.31)	2008年3月期 第4四半期 (07.01.01～ 07.12.31)	前年同期比 増減率
売上高	512	634	+23.6%
営業利益	160	207	+29.7%
経常利益	159	210	+31.6%
当期純利益	93	123	+32.1%

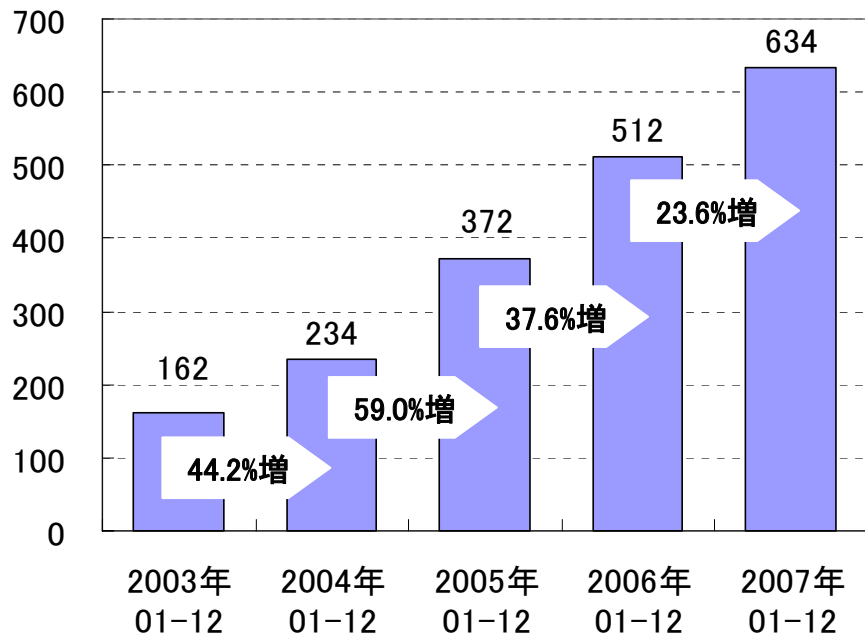
※ 決算期変更に伴う経過措置として、当期(2008年3月期)は2007年1月1日から2008年3月31日までの1年3ヶ月決算。

過去5期間における業績推移

売上高、経常利益ともに過去最高を更新

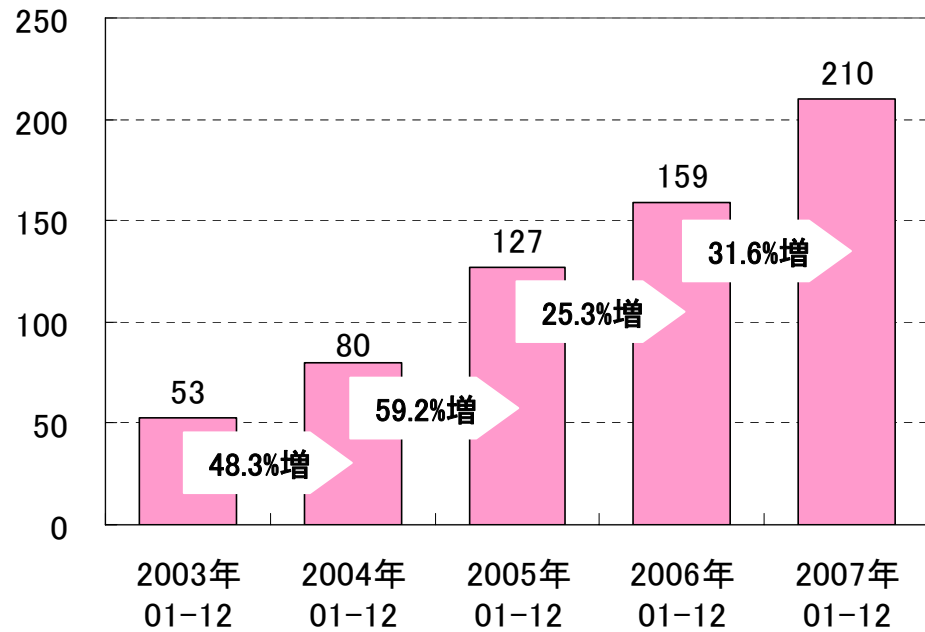
(百万円)

売上高



(百万円)

経常利益



ゴメスの今後の重点施策

① 分析から制作・サポートまでの一貫したサービスの提案強化

分析業務のみを利用した顧客に対して、制作・サポート業務の提案を積極的に行い、顧客単価の向上を図る。

② 社内業務システム向けユーザビリティ改善サービスの提案強化

Eコマースサイト等のコンサルティングサービスで培ってきたノウハウを、社内業務システムのユーザビリティ改善にも応用していく。

③ 事業環境及び事業機会を捉えた重点分野における提案強化

銀行・証券、保険、人材、不動産、大学を重点分野と捉え、新規顧客の開拓及び既存顧客への継続的な提案に注力していく。

Part 4

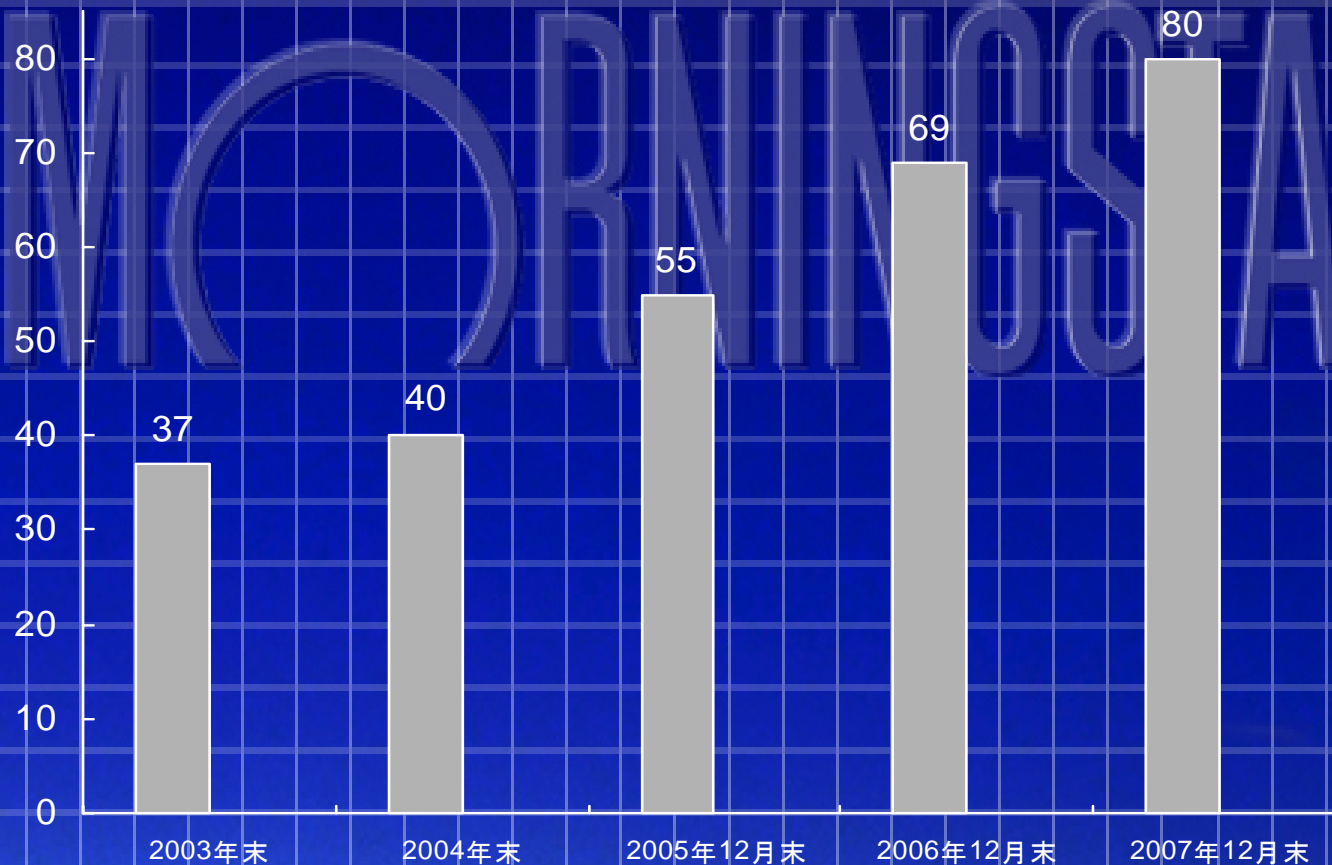
モーニングスターの市場環境と 今後の戦略

拡大する国内投資信託市場

契約型公募投資信託残高の推移

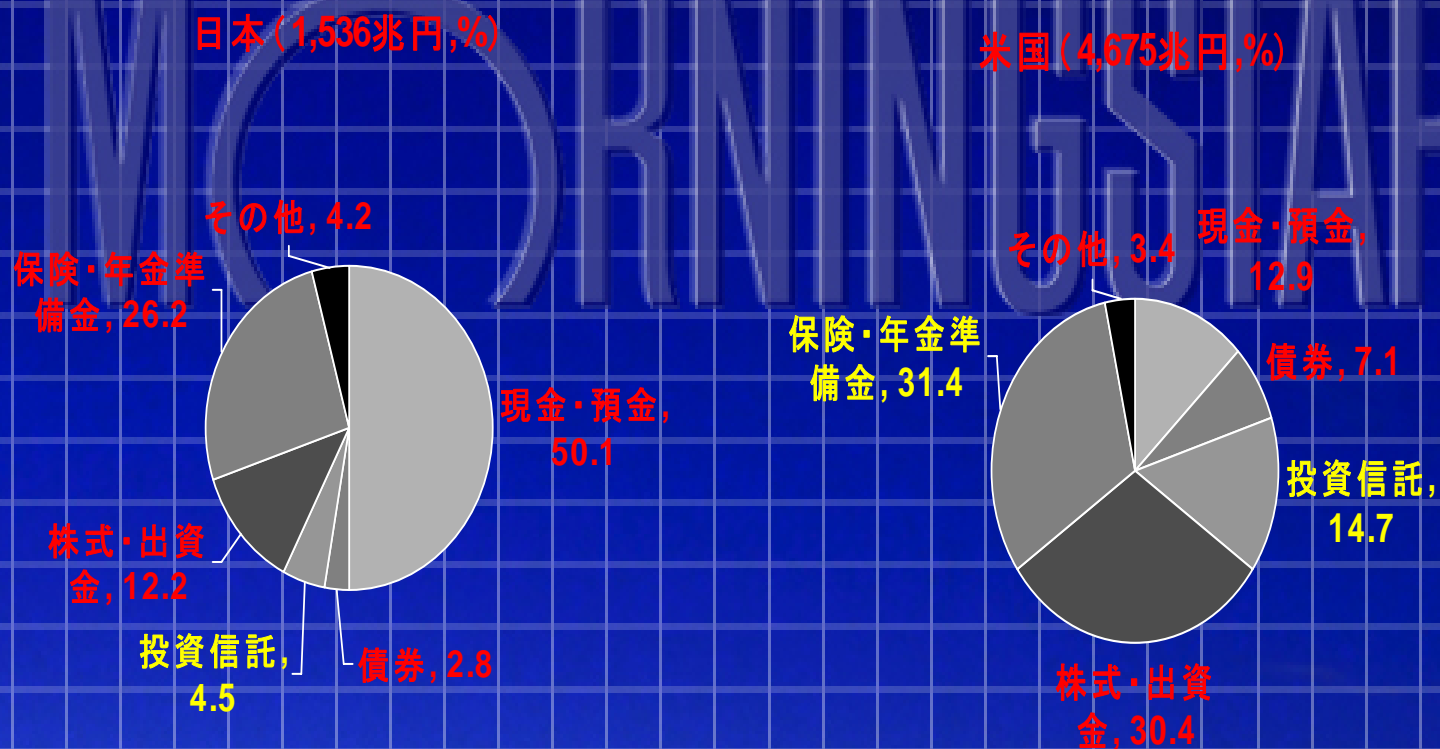
(兆円)

直近3年間で純資産残高は倍増



日米の個人金融資産構成の比率

米国に比べて日本の個人金融資産に占める
投資信託の比率はまだ少ない



(出所: 日本銀行)

* データは2007年3月基準。円/ドルの為替換算レートは、110円/1\$で計算。

モーニングスターの今後の戦略

1) 「金融・資本市場競争力強化プラン」により、個人投資家には多様な資金運用機会が提供される。

→グローバルなETF、海外株式情報の提供。

2) 「金融商品取引法」施行により、販売金融機関は、コンサルティング営業を推進する。

→コンサルティングに活用する的確な運用シミュレーションツールの提供に加え、最適な資産配分とファンド選定アドバイスの提供。

3) 確定拠出年金法案の改正(審議中)ならびに、適格退職年金制度の廃止により、確定拠出年金マーケットは飛躍的に拡大する。

→確定拠出年金に必須の投資教育と資産運用関連情報ならびに資産運用アドバイスツールの提供。

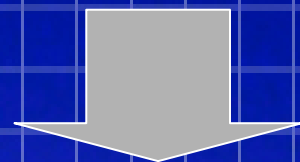
「金融・資本市場競争力強化プラン」による事業機会の拡大

□ ETFの多様化

- ・ 株価指数連動型ETFの多様化
- ・ 株式以外の上場有価証券を投資対象とするETFの解禁
- ・ 商品先物等投資対象とするETFの解禁

□ 海外企業株式の国内での取引機会の拡大

- ・ JDR(日本版預託証券)の商品内容等についての検討。



- 1) 多様な品揃えからの的確なETFを選定すべき情報への要望が高まる。
- 2) 運用会社からは特徴のあるETFを組成するための様々なインデックス(ベンチマーク)のライセンス取得ニーズが拡大する。
- 3) 海外企業株式の分析レポートへのニーズが高まる。

ETFおよび海外企業株式情報の提供へ

□ 米国モーニングスターが既に提供しているETFおよび海外株式のアナリストの分析レポートおよび定量データ、コラム等を翻訳し、国内の投資家に提供する。

□ 米国モーニングスターの開発したインデックスに連動するETFを既に数社の運用会社が組成しており、同様に国内でも、モーニングスター独自のインデックスを立ち上げ、運用会社にETF組成を促す。

→ モーニングスター社会的責任投資(SRI)Indexに連動するファンドを野村アセットマネジメント株式会社が、「モーニングスター SRIインデックスオープン」ファンド(純資産20億円:2008年1月16日現在)として立ち上げている。



投信販売の説明はよりコンサルティング指向へ

金融商品取引法の施行(2007年9月30日)

適合性の原則

金融商品販売の説明は、「顧客の知識、経験、財産の状況及び当該金融商品の販売の契約を締結する目的に照らして、当該顧客に理解されるために必要な方法・程度によってしなければならない。」

重要な説明事項の追加 「取引の仕組みのうちの重要な部分」

金融商品販売の説明は、単に元本割れのリスクがあるという説明だけでは十分でなく、どのような仕組みで元本割れリスクが生じるのかを説明しなければならない。



投資家への的確なアドバイスに必要なデータ、情報、ツールに対するニーズが拡大する。

販売員がコンサルティング営業に活用する 資産運用シミュレーション・ツールの提供

「モーニングスター・ポートフォリオ・アドバイザー」

ツールの特徴

- ・現状の顧客の資産構成から、最適なファンド選定を提示。
- ・預金、個人向け国債、外貨預金等と併せたポートフォリオのリスク・リターン分析が可能。

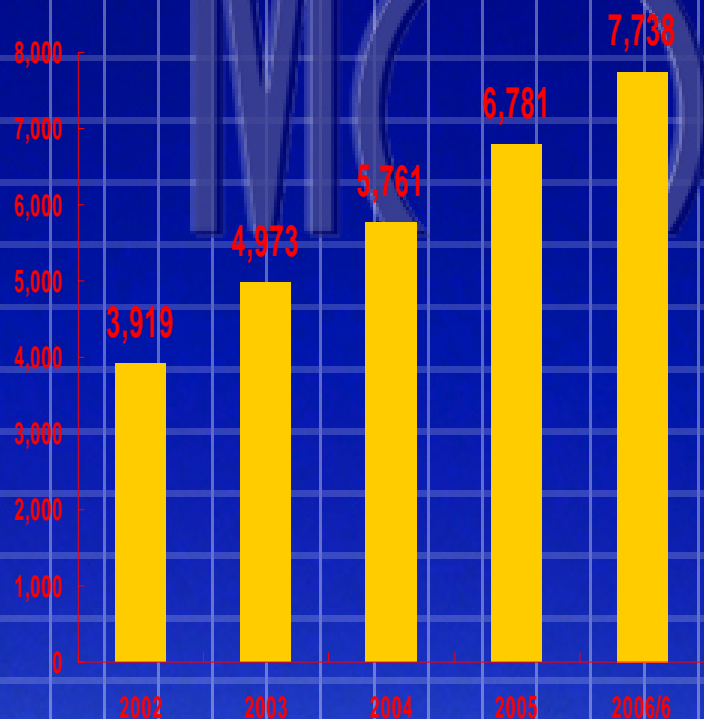


日米のラップアカウントの残高推移

投資アドバイスを求める投資家の拡大

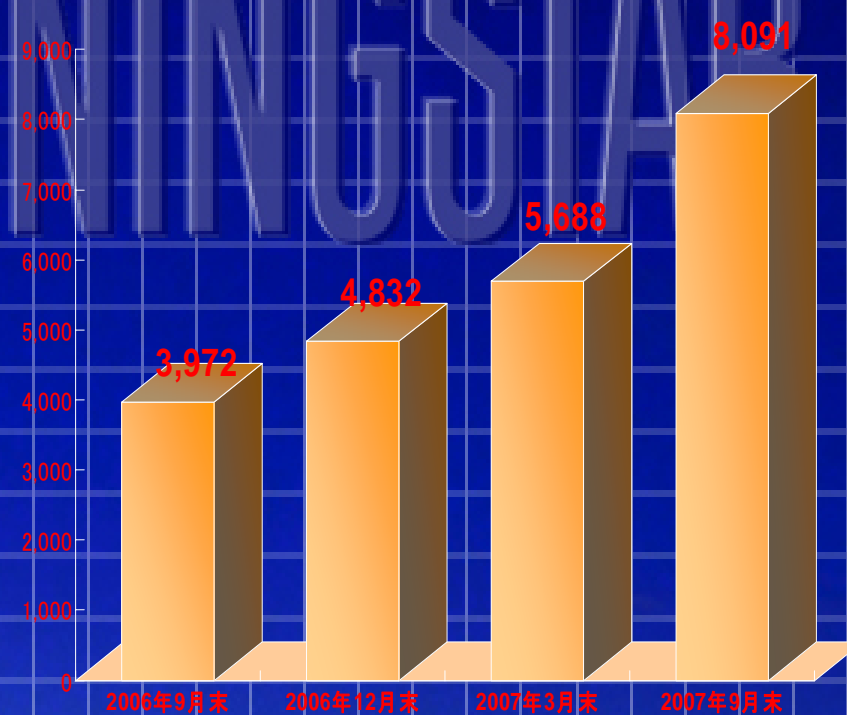
米国SMAの残高推移

(億ドル)



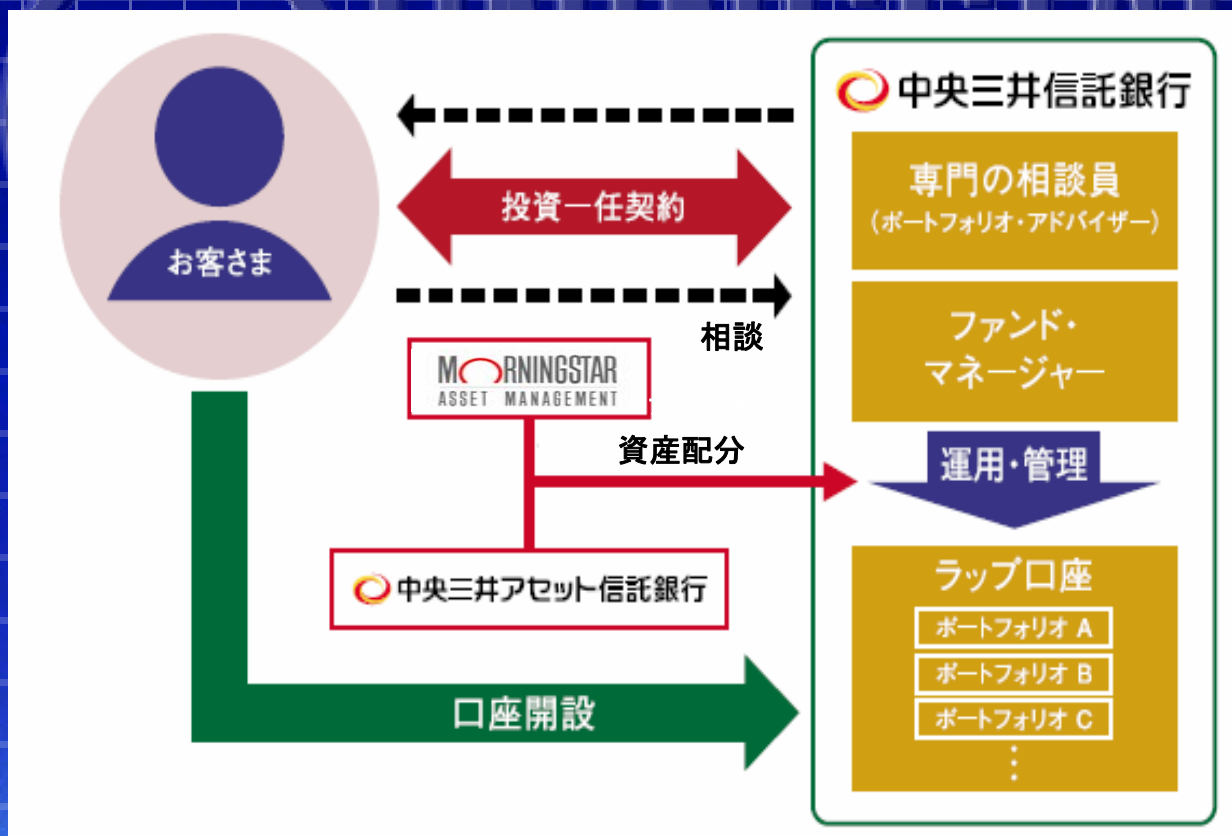
国内におけるラップ口座の契約状況

(億円)



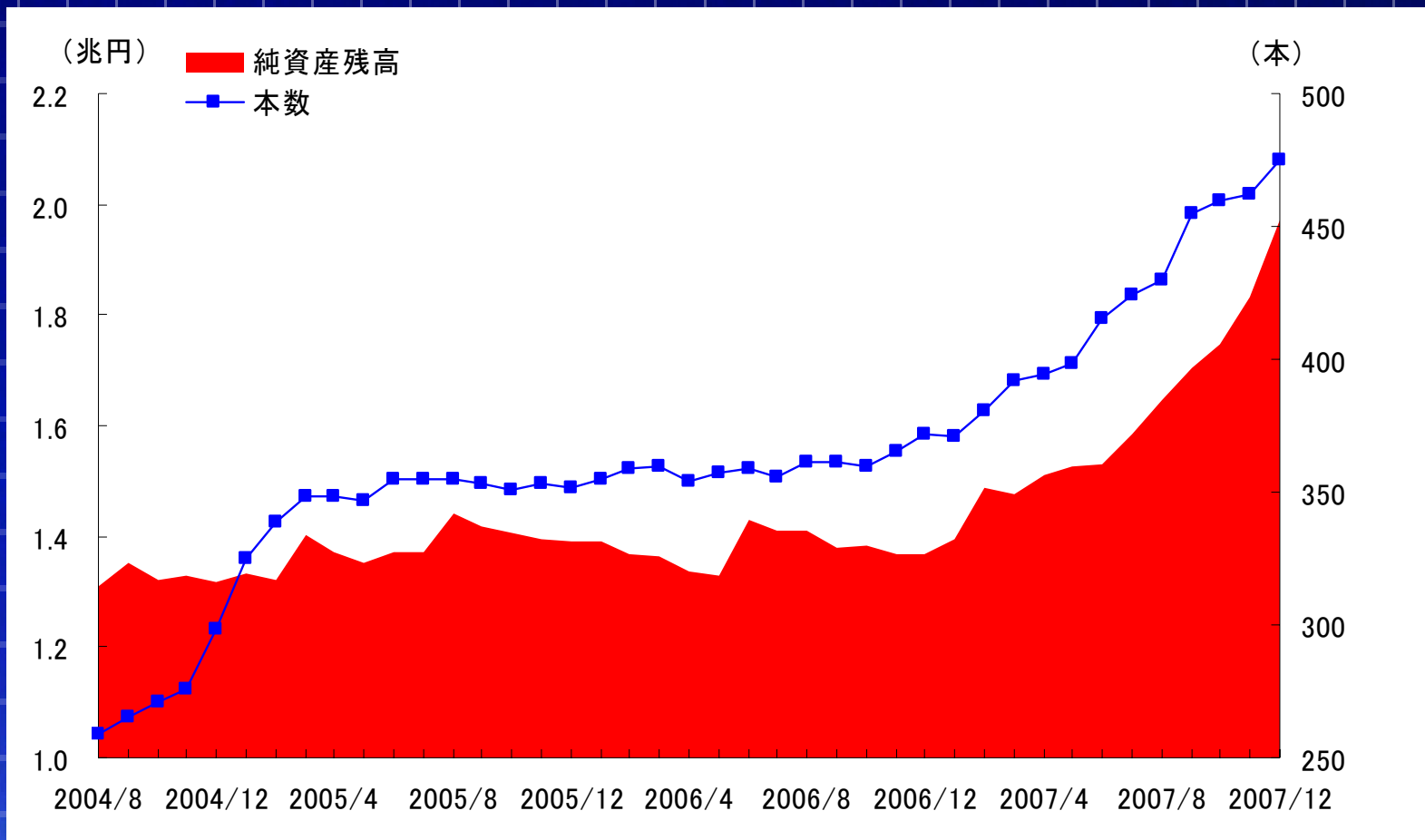
投信ラップへのアドバイスの提供

モーニングスター・アセット・マネジメントは中央三井信託銀行が提供する『プライベート・ラップ』に対して、約25,000本の国内籍および海外籍ファンドの中から、定量的・定性的に優れたファンドを選定。



進展する個人投資家のポートフォリオ運用

バランス型ファンドの本数と純資産額の推移



* データはモーニングスターの国内ハイブリッド型、国際ハイブリッド型分類のファンド

グローバルデータを活用した、 ファンド選定の投資助言業務を積極的に推進する



ファンドマネジャーズ・
セレクション



純資産残高に対する
アドバイスフィー

モーニングスター・アセットマネジメントは
グローバルなモーニングスターの評価・格付
情報を基準に世界各国の資産・スタイル別に
最も優れたファンドマネジャーを選定する。

モーニングスター・アセット・マネジメントの投資助言ファンド



■モーニングスター セレクトファンド

運用会社: 中央三井アセットマネジメント

販売会社: 中央三井信託銀行

純資産: 83億円



■住信 財産四分法ファンド(毎月決算型)

運用会社: 住信アセットマネジメント

販売会社: 住友信託銀行

純資産: 2,115億円



■ジャパン・プレミアム・セレクト・ファンド

運用会社: 住信アセットマネジメント

販売会社: 住友信託銀行

純資産: 33億円



■コスモ・モーニングスター・バランスファンド

運用会社: T&Dアセットマネジメント

販売会社: コスモ証券

純資産: 111億円



■モーニングスターグローバル

バランスファンド

運用会社: 中央三井アセットマネジメント

販売会社: 中央三井信託銀行

純資産: 80億円



■スターバリューファンド

運用会社: 安田投信投資顧問

販売会社: 東京スター銀行

純資産: 16億円

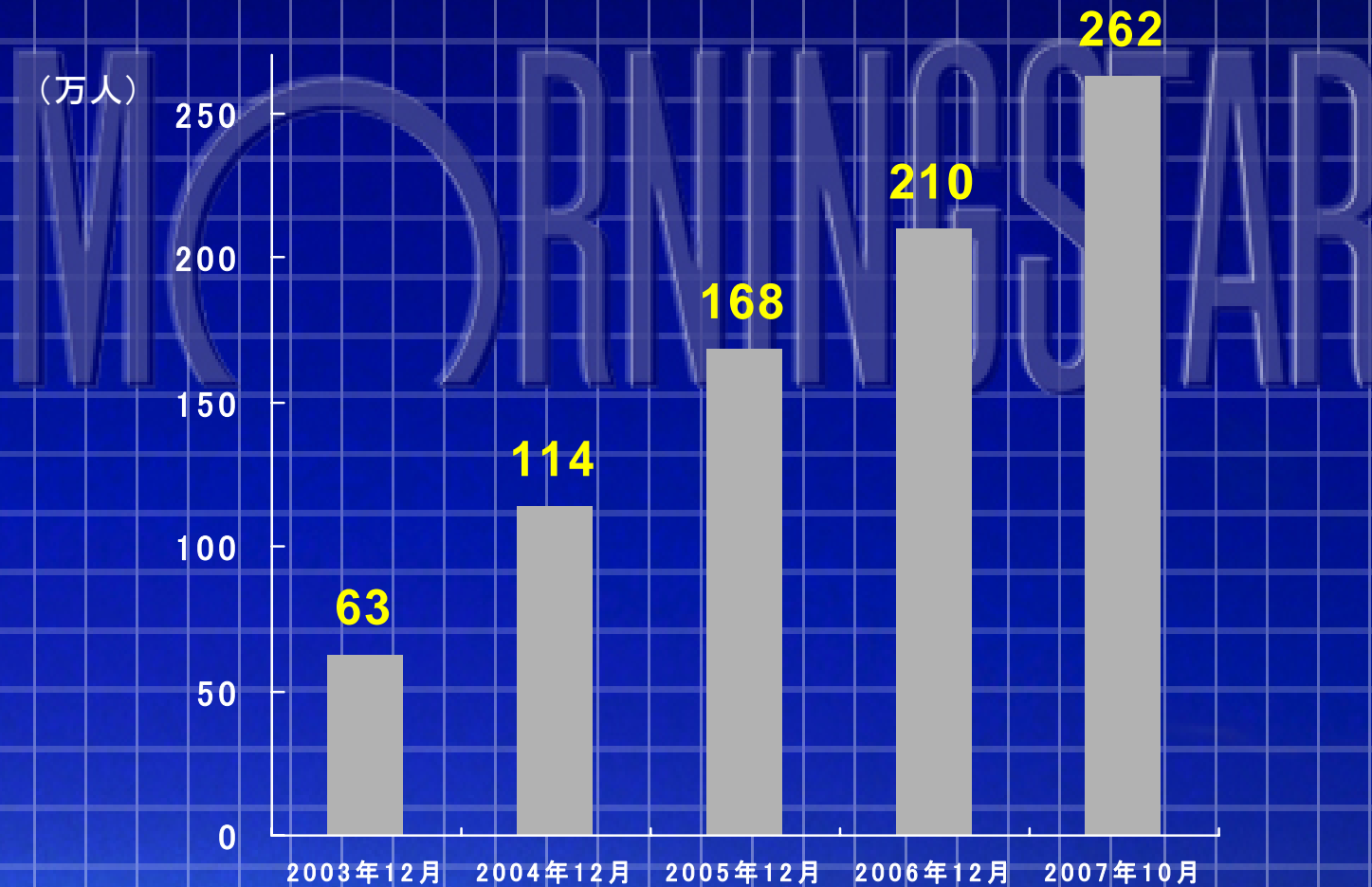
確定拠出年金の現状(日米比較)

■ 日米の確定拠出年金加入者、資産残高比較

	日本	米国
加入者	262万人 (平成19年10月末)	4,000万人
資産残高	2兆1,500億円 (平成19年3月末)	420兆円

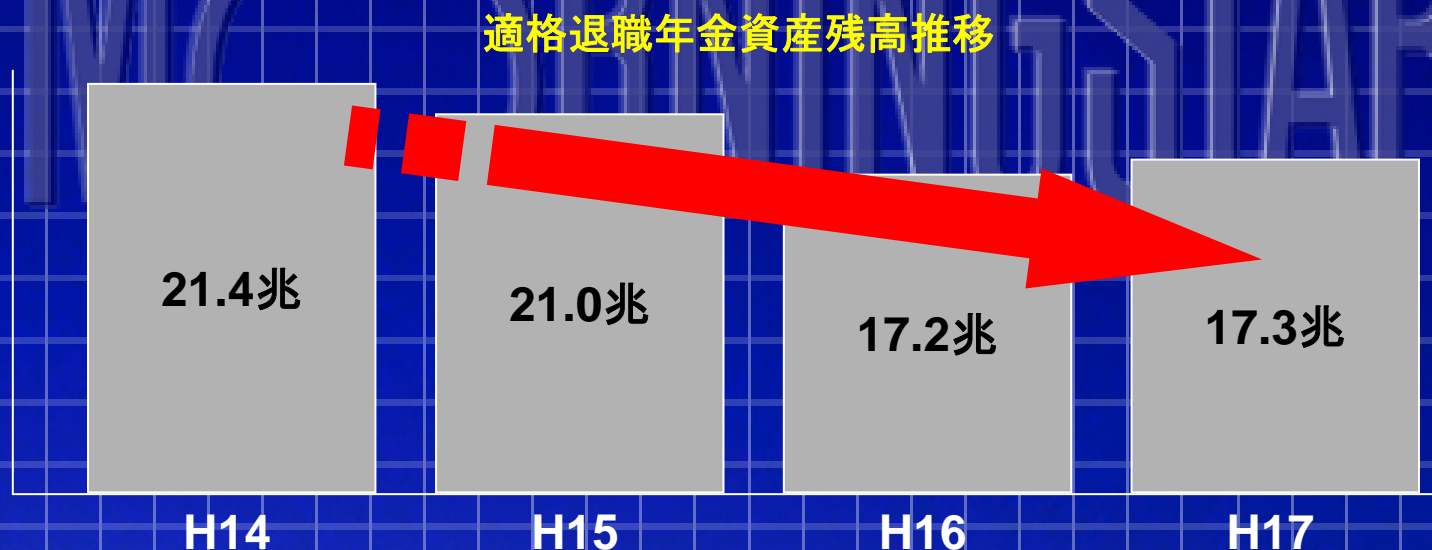
確定拠出年金加入者数の推移

今後資産形成を行なう若年層も資産運用を本格的に考える



適格退職年金制度からの移行

確定給付企業年金法の施行(平成14年4月1日)に伴い、適格退職年金制度は、原則として新規に設立できなくなり、平成24年(2012年)3月31日をもって廃止される。



制度廃止に向け確定拠出年金制度への移行へ
⇒確定拠出年金制度資産残高の大幅増加も

日本版401Kの検討課題と現状

- 運用商品除外 ⇒ 法案審議中
- 投資教育義務化 ⇒ 法案審議中
- 60歳以降の加入 ⇒ 法案審議中
- 本人拠出枠創設(マッチング拠出) ⇒ 折衝中
- 拠出限度額の拡大 ⇒ 折衝中

※米国では、2006年年金法改正により「デフォルト商品」をライフサイクル型(バランス型)商品とすることとなった。日本では、元本確保型の預金であり将来的に米国のような体制になれば投信の残高は飛躍的に伸びるであろう。

課題を克服することによる資産残高大幅増加の可能性

確定拠出年金関連サービスの今後の事業機会

今後の課題

継続教育の義務化

運用商品除外
⇒運用商品入替え

適年廃止、マッチング拠出
⇒運用会社 投信残高増

米国での
アドバイスサービス発展

今後の展望

運営管理機関は手が回らず
モーニングスターのサポート

モニタリング、選定助言ニーズ

ファンドの定量・定性分析情報

FPの囲い込み
(ツールによるアドバイス)

加入者とのアドバイス契約
(ツール利用)

2007年度第4四半期の決算概況

(2007年1月～12月)

2008年1月22日

モーニングスター株式会社